

8-2

主題

褥瘡の部位・発生原因に着目した褥瘡改善対策アプローチの紹介

褥瘡改善対策

副題

～忙しくてもできる！わかりやすく、かつ効果の大きい褥瘡対策伝えます～

簡便・効果的アプローチ

研究期間

4ヶ月

事業所

特別養護老人ホーム・第二八丈老人ホーム

発表者： 笹本真奈美（ささもと まなみ）

アドバイザー：伊原恵美子（いはら えみこ）

共同研究者：菊池しおり・下條祐二・佐々木美香・西浜敏之・村松宜則・伊勢崎嘉則

電 話

04996-2-0770

メール

yowakai@smile.ocn.ne.jp

FAX

04996-2-0432

URL

http://www17.ocn.ne.jp/~yowakai/

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

八丈町は東京の南方海上 291 kmに位置し、交通の便も良く、海洋性気候により、生活しやすい島である。人口は 8000 人程度で、島内の高齢化率は 32.5%と高い。入所サービスを担っているのは当施設のみであり、重度介護者が多く、多くの利用者が内科的疾患も合併している。当施設は離島という環境下で新たな知識を得にくい中、島内の住民・他事業所に向けての勉強会等を開催し、介護の知識・技術向上を目指している。

《研究前の状況と課題》

当施設の利用者において、平成 22 年 8～9 月までの時期に、入所者 100 名中 20 名（期間中含まれば 25 名：A 館 14 名・B 館 11 名）という多くの割合で褥瘡者を出現させてしまった。

それまでもホッショウや湿潤対策など、褥瘡予防に対する対策・指示は行っていたものの、「このままではまずい」と、褥瘡予防対策委員会の対策を強化することとした（まずは褥瘡ができてしまった方にアプローチをし、その後、予防活動につなげることにした）。

これまでの褥瘡対策は、異なる褥瘡の部位や生活状況の利用者に対し、「まずは考えられる対策を全てやっぺいこう」というものであり、業務の忙しい介護士にとって、負担が大きいものであった。この忙しい業務の中で、利用者の負担を減らし、より笑顔でいて頂ける時間を増やすために、どのようにしたらよいか、より効果的な計画を立て、かつ実践していくことが課題であった。

《研究の目標と期待する成果》

まずは多くの割合で出現させてしまった褥瘡者の改善が必須の目標であった。

これまでの全ての褥瘡に対する同一のアプローチから脱却すべく、褥瘡の部位と生活状況との関連、そして褥瘡自体についての知識の浸透を図り、それらの知識を元に褥瘡対策を計画することを目指した。

この計画自体も、忙しくて実行できないのでは意味がないので、より短時間で対策が実行でき、かつ有効な計画となるよう立案した。

また当施設は入所者 100 名を A 館・B 館と業務体系の異なる 2 つの棟に分かれてケアを提供している。本研究方法は 2 つの異なる業務体系でも同様の効果が出るかに着目することで、本方法が様々な業務体系に適用可能かについて検討した。

尚、本研究におけるデータは、倫理面に配慮し、個人を特定できない様にデータ処理を行った。

《具体的な取り組みの内容》

対象者 1 人 1 人の生活状況（発生要因）、褥瘡部位について情報収集し、改善策を検討した。

アセスメント方法は「褥瘡部位」として A 仙骨部、B 尾骨部、C その他の部位と分類し、「褥瘡発生要因」は、A 仙骨部は「パッド」上仰向けで横への移動介助、もしくは「ポジショニング」による持続的圧迫を想定し、B 尾骨部は「パッド」上での「ギヤッジアップ」によるずれ、もしくは車イス座位時でのずれを想定した。

褥瘡部位と発生要因別にグループ分け＜A 仙骨部グループ、B 尾骨部グループ（B-1：車いす組、B-2：ギヤッジアップ組、B-3：車いす×ギヤッジアップ組）、C 片側・局所部グループ＞し、そのグループに応じた対応策を考えた。また褥瘡を理解しやすく、かつ対策が実行しやすいように褥瘡を湿潤・栄養・処置・ポジショニング（シーティング）の 4 項目に評価・実行項目を絞った。具体的対策として、湿潤は「排泄パターンを把握、湿潤の時間を減少する」、栄養は「摂取状況記録+栄養補助食品の導入」処置は「処置の確実な実施」ポジショニングは「A：パッド上での介助およびポジショニング、B-1：車イス座位時の姿勢調整および座位時間の短縮、B-2：ギヤッジアップ時のポジショニングの調整、B-3：B-1・2 の両アプローチ、C：パッド上でのポジショニング」を対策としてアセスメント→計画実施した。褥瘡予防対策委員会は月に 1 回の頻度で行い、全体の進行状況およびその時の課題について検討した。また A 館・B 館とも週 2 回程度の頻度でポジショニング等の勉強会を行い、知識・技術の機会を作った。

《取り組みの結果と評価》

取り組みを行った結果、A 館において 13 人（1 名除外）中 11 人で 85% の改善率が得られ、B 館において 11 人中 10 人 89% の改善率が得られた（全体で 24 人中 21 人の改善が行えた）。

平成 22 年 9 月までに褥瘡を多数出現させてしまったが、的確な原因把握、解決方法を明確に示し、適切な介助を行えば悪化の傾向を断ち切り、改善することができることが示された。

また本アプローチは、業務体系が異なる、A 館・B 館といった 2 か所においてほぼ同程度の改善度合いを得ることができたことから、本アプローチ方法は様々な業務体系に関わらず導入が可能であり、かつ高い効果が期待できると考えられた

《まとめ》

本研究では多くの割合で施設内に出現させてしまった褥瘡者の改善を目指して、忙しい中でも効率的、かつ効果的な計画立案・実行を行った。

業務体系が異なる 2 か所において、共に 80% 以上の改善率が得られたことから、褥瘡の部位および発生要因から具体的問題点を捉え、「湿潤」・「栄養」・「処置」・「ポジショニング（シーティング）」という 4 項目に焦点を絞った本アプローチは多くの施設でも有用であることが考えられた。

《参考文献》

○田中マキ子・他：褥瘡予防のためのポジショニング～やさしい動きと姿勢のつくり方～、中山書店

《提案と発信》

「褥瘡」という言葉を聞くと、様々な要因が関係していて、職員全員が理解することは難しいと感じていないでしょうか？「行動」を起こすためには、まず「理解」が必要と考えられます。本研究は、褥瘡の対策を、よりわかりやすく理解をして頂く方法を考え、かつ忙しくても簡便に実行可能な対策を設定し、高い効果を得ることができました。是非ご参照下さい。

【メモ欄】